

タデ原及び周辺地域のこけ植物・地衣類群落

指山山頂は北方系の地衣類の宝庫

タデ原湿原は、ノリウツギ他の林とヨシ湿地草原が広がりミズゴケ類を伴っています。隣接する山裾には、ブナやミズナラ林があり、幹に地衣類群落が見られます。また、湿原の背後の三俣山山腹より独立した指山（標高1449m）は、北方系地衣類が生育しています。



拡大写真はトゲナシカラクサゴケ

林内の着生地衣類群落

ミズナラ他の幹は地衣類でおおわれていますが、トゲナシカラクサゴケだけが生育する場合があります。これは硫黄山からの火山性噴気の影響と考えられ湿原の北方の林ほか硫黄山から遠ざかる地域では種数が増しています。

湧水口のコケ植物群落



指山湧水の水中には苔類フジウロコゴケが生育しています。

湿原内のミズゴケ類の群落

湿原の南部と東部の指山湧水下方にノリウツギの林があり、オオミズゴケとヒメミズゴケが斑状に広がり良好な生育を保っています。



指山湧水下方のノリウツギ林内に広がるミズゴケ群落



オオミズゴケ



ヒメミズゴケ

ウスギワゴケの発見

指山山頂部の岩上に地衣類フタゴチズゴケ、タカネゴケ、アナイワタケの北方系の種による群落が広がっています。この群落に地衣類ウスギワゴケが共存することを今回確認しました。本種は北半球の極地に広く分布し、日本では北海道（大雪山）、本州（立山）、長野県金峰山から報告されており、いずれも2000m級の高山です。指山は南に位置し、標高もより低い1449mであり、特記すべきことで植物研究雑誌に発表しました。

なお、指山と谷（九州横断道）を挟んだ黒岩山（標高1502m）には上記の種に加え、北方系の代表的な種である地衣類マキバエイランタイが生育し、両種ともくじゅうの他の場所では見つかりません。

地衣類は雨水や霧から水分や養分を吸収して生活し土壌の影響を受けないことから、気象的要素が北方系地衣類を支えていると考えています。



ウスギワゴケ群落



北方系地衣類群落 黄色の固着地衣:フタゴチズゴケ 黒褐色の葉状地衣:アナイワタケ

タデ原北方の岩上地衣類群落

スキ草原内の巨石には葉状地衣アカゾメキクバゴケが生育し、固着地衣ヘリトリゴケ属（Lecidea oreinodes）を伴っています。



拡大写真はアカゾメキクバゴケ (右写真のスケールは1mm)

固着地衣とは岩や樹皮に塗り付けられたように薄く付着する仲間ですが、研究途中のため種名確定への取り組みは分野ごとの限られた学者によります。また、和名はほとんどつけられてなく学名（ラテン語）のままが一般的です。



固着地衣ヘリトリゴケ属 (Lecidea oreinodes)